弥生時代

名前

問1　弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 稲を根元から刈り取るために用いられた
2. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた
3. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた
4. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた

問2　邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）

1. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。
2. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。
3. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。
4. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。

問3　弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲出山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）

1. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。
2. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。
3. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。
4. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。

問4　弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。
2. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。
3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。
4. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。

問5　表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）

1. 銅矛
2. 銅鐸
3. 埴輪
4. 銅戈

問6　弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 鉄器
3. 埴輪
4. 磨製石器

問7　古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしました。（2024年 宮崎県公立入試 類似）

1. 朝貢
2. 冊封
3. 通商
4. 民間貿易

問8　3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った
2. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した
3. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた
4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた

問9　鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である
2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である
3. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている
4. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている

問10　弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）

1. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した
2. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた
3. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった
4. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された

問11　卑弥呼が中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 中国の律令制度を日本に持ち帰り、戸籍の作成や租・庸・調の税制を整えるための助言を求めたため。
2. 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。
3. 中国から仏教を公式に導入し、宗教の力を用いて人々の思想を統一し、中央集権的な国家を築こうとしたため。
4. 魏の軍事力を借りて朝鮮半島の国々を征服し、鉄資源を独占して経済的な優位性を確立しようとしたため。

問12　邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2025年 長野県公立入試 類似）

1. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
2. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符
3. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
4. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀

答え合わせ・解説

問1	答え 4 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけを一つずつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問2	答え 2 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問3	答え 3 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲出山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問4	答え 4 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問5	答え 2 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格を強めていきました。
問6	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問7	答え 1 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問8	答え 3 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問9	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問10	答え 3 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穣を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問11	答え 2 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。	弥生時代後期の倭国は、多くの小国が乱立し争い合う「倭国大乱」と呼ばれる時代を経て、卑弥呼を女王として共立することで一時的な平和を得ていました。卑弥呼は、当時中国で最も勢力の強かった魏と外交を結ぶことで、その強大な威光を背景に国内の統治をより確固たるものにしようとする外交戦略をとりました。
問12	答え 3 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。